

# 兵庫・三原石田遺跡

1 所在地 兵庫県出石郡但東町三原字石田

2 調査期間 二〇〇一年(平13)九月～十一月

3 発掘機関 但東町教育委員会・日本モンゴル民族博物館

4 調査担当者 金津匡伸

5 遺跡の種類 自然流路

6 遺跡の年代 弥生時代～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

三原石田遺跡は、但東町の中央部、出石川と太田川の合流地点近くに所在する。統合中学校の建設に伴う確認調査の結果、太田川左



(出 石)

岸で簡単な杭打ちによる護岸施設が検出された。

耕作土の下に広がる粘質の強い黒色土層が遺物包含層で、砂層が薄く交互に重なり合っている。遺物の分布は旧河道の護岸に沿った約二〇㎡にわたり、奈良時代から平安時代にかけての

ものを中心に、小型手捏ね土器、土錘、破碎された土製竈、斎串や松明に利用された木片、曲物、糸巻、台付皿などが出土している。遺物やその出土状況から、川辺での祭祀的な行為が行なわれたことが想像される。

木簡は、遺物包含層から一点出土した。呪符木簡と考えられる。時期は土層観察と出土した土器により、平安時代後期から鎌倉時代と考えられる。この他の出土文字資料としては、墨書土器一点がある。奈良時代後期の須恵器杯底部外面に書かれたもので、「大家」と判読できる。「大家」の墨書土器は、但馬国内では他に豊岡市の立石岡田遺跡で一点確認されている。

8 木簡の积文・内容

(1) □□(符籙)

(21.7)×(2.2)×6.081

右側が割れ、下部が欠損しているが、頭部と左側に削りが見られる。文字は墨が流れてしまい、輪郭の盛り上がりだけが残存している。上部に梵字かと思われる墨痕があり、下部は「日日日日日日日」と読みとれる。符籙の一部であろう。

(金津匡伸)

